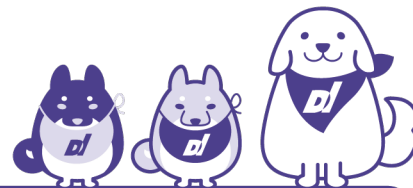




しらいし あつこ

白石 厚子

担当 営業部 お客様係



美味しい食べ物が次々と頭に浮かぶ秋を迎えて、何を食べようかとワクワクして毎日を過ごしています。皆さまも秋には、これは食べておかないと、という逸品があるかと思います。

さて、今回のお題『私のおススメの本』ですが、宮沢賢治の「よだかの星」をご紹介したいと思います。お話は「よだか」という名前の鳥が、外見が醜い為に、仲間の鳥から理不尽ないじめや嫌がらせを受けて、最後には「名前を変えろ。」とまで言われてしまいます。そんな毎日が嫌になり、星になってしまいたいと思うようになるのですが・・・。

最後に「よだか」は星になる事が出来るのですが、なんとも悲しく、自分の中でひっかかりのある物語でした。人は生まれた時から不平等であり、理不尽の中で生きて行くものだ。そして自分もまた他の何かの犠牲の上に生きている。この本に出合ったのは私が30代後半と人生も半ば近い頃で、生きているのに飽きており自分の人生に意欲が無い頃でした。そんな私に「よだか」は人生は楽しいことより、嫌な事や辛い事の方が多いけど、それでも努力を惜しまず生きていく事を伝えてくれています。